城山公園から錦江湾と桜島を望む
（鹿児島市）

錦江湾に浮かぶ桜島 ――
在任３年で 第二のふるさとになった「鹿児島」

草野 仁（くさの ひとし）
フリーアナウンサー

1944年生まれ。東京大学文学部社会学科卒業後、NHK入社。鹿児島、福岡、大阪放送局勤務の後、1977年東京アナウンス室へ。主にスポーツキャスターとして、モントリオールおよびレークプラシッド五輪をはじめ、様々なスポーツの中継実況を担当。また、『ニュースセンター9時』『ニュースワイド』のキャスターも務めた。昭和60年NHK退社以後、フリーのTVキャスターと して活躍中。MCを務めるTBS『世界ふしぎ発見！』は24年目になる人気長寿番組。

長崎県島原に住んでいた頃の中学の修学旅行が、阿蘇（あそ）―霧島（きりしま）―鹿児島の２泊３日で、桜島に行くフェリーで見た噴煙たなびく雄大な桜島に強烈な印象を受けました。福岡藩士 平野國臣（ひらのくにおみ）の「わが胸の燃ゆる思ひに くらぶれば 煙はうすし桜島山」という歌が思い浮かび、よし、また来ようと思いました。その後東京で５年間過ごしＮＨＫに入りました。２ヶ月半の研修のあとローカル局への赴任になるのですが、君は鹿児島へといわれ全く幸運でした。赴任の不安のなか、鹿児島という場所が心の支えでしたね。

局は１００人位の規模で、アナウンサーは私を入れて８人、当時の局は天保山（てんぽうざん）にあって毎日桜島を見られるし、嫌なことがあると片道15分のフェリーに乗って桜島との間を往復しただけで元気を取り戻せました。そして視野の広い先輩からは、アナウンス業務だけでなく番組を作るディレクターの役割も果たせと教えられ、１週間に１本15分のローカル番組を担当し、企画、台本から出演者交渉、現場の写真も撮影、そしてインタビューまでという充実した１年間を過ごしました。

周囲の心配をよそに２年目に結婚し、12階建て８階の公団住宅に当選しました。すぐ前に錦江湾と桜島があって、１日に七変化するといわれる桜島の光景を毎日眺めて過ごしました。桜島が噴煙を噴き上げると観光客がくるので一噴き百万両といわれ、灰が降ってもみんなこれ位はと我慢していました。

鹿児島は南国のイメージですが、北薩（ほくさつ）の冬はめっぽう寒いし、出水平野（いずみへいや）には鶴もやってくる、霧島からえびの高原にかけては北海道のような自然もあります。南に向かうと海の色が変わり、開聞岳（かいもんだけ）付近では空の色が一段と鮮やかになります。温泉が随所にあり、地域特有の料理があり、魚は新鮮でおいしい、優しい方が多くて、すぐ熱烈な鹿児島ファンになりました。また薩摩焼の※沈寿官（ちんじゅかん）さんは、番組づくりで何度かお目にかかりましたが、焼き物の知識や技術だけでなく、音楽や芸能まで視野がひろい。それらの方々も含め、鹿児島は人材も豊富で、私にとって忘れられない第二のふるさとととなっています。（談）

※沈寿官　先祖は慶長３年の豊臣秀吉朝鮮出兵の折に日本へ連行された陶工
現在はその15代目にあたる薩摩焼の名工

参勤交代の行列が渡っていた西田橋
現在は石橋公園に移築されている
（鹿児島市）

絵：平野 敬則